

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区立郷土資料館運営委員会
事務局（担当課）		文化商工部 文化デザイン課
開催日時		令和5年12月19日（火）14時00分～16時00分
開催場所		としま産業振興プラザ3階 研修室2
議 題		<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員委嘱、委員長互選 2. 令和5年度の事業報告・予定 3. 企画展「生誕100年佐川美代太郎展」の見学・講評 4. 令和6年度の事業計画について
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田弘明（桜美林大学資格・教職センター教授） ※委員長 ・長佐古美奈子（学習院大学史料館学芸員,豊島区文化財保護審議会委員） ・原田 光（KAITA EPITAF 残照館（旧「信濃デッサン館」）館長お手伝い、元岩手県立美術館館長） ・野村佳男（豊島区立長崎小学校校長） ・小池陸子（郷土資料館友の会会長） ・宮瀧交二（大東文化大学文学部教授） 欠席
	事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・文化商工部長 ・文化デザイン課長 ・郷土資料館長 ・芸術文化推進グループ係長(学芸員) ・郷土資料館管理運営グループ主査(学芸員) ・芸術文化推進グループ学芸員 ・学芸研究員6名

審 議 経 過

文化デザイン課長	<p>それではお待たせいたしました。本日は年末のご多忙の中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。まだ委員の方が遅れていらっしゃるということですので、定刻となりましたので、豊島区立郷土資料館運営委員会を開催いたします。私は豊島区文化商工部文化デザイン課長の大根原と申します、よろしくお願いいたします。</p>
文化商工部長	<p>本委員会は公開の会議となっております、会議録は皆様にご確認いただいた後にホームページにて公開となります。それでは委員会の開催にあたりまして、文化商工部長の小池よりご挨拶させていただきます</p> <p>文化商工部長の小池でございます。本日は大変お忙しい中、郷土資料館運営委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本委員会は昨年度要綱を変えて、装いも新たに郷土分野だけではなく美術分野、あるいは文学マンガ分野、それぞれの学識経験者の先生方をお迎えし、学校連携の観点がありますので、まだお見えになっておりませんが、小学校校長にも会議に入ってくださいました。さらには郷土資料館友の会会長にも委員に入ってくださいています。</p> <p>引き続き、郷土資料館の3分野にわたってご意見等を賜ればと思っております。</p> <p>また本日は7階で展示しております「生誕100年佐川美代太郎展」、こちらをご覧ください時間をとっておりますので、後ほど、ご意見等いただければ幸いです。</p>
文化デザイン課長	<p>4月から区政運営が変わりまして、高際区長が初の女性区長として就任しております。区民提案制度ですとか、あるいは子どもたちの声を直接聞くということで子どもレター制度を新規に実施しています。ダイレクトに区長に子どもたちの声が届くような形になっております。郷土資料館についてもいくつか子どもレターで質問を受けていて、西巢鴨の歴史についてご質問をいただきましたので、館の方で丁寧に回答文を作ってご案内をさせていただいているところです。</p> <p>結びになりますが、委員の皆様には、引き続き豊島区政へのご理解、ご協力を賜ればと思っております。また改めて本日の委員会の方、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
文化商工部長	<p>続きまして、事務局をご紹介します。</p> <p>(事務局紹介)</p> <p>それでは続きまして、文化商工部長より委嘱をさせていただきます。なお委員の委嘱期間は前任の委員から引き継ぎますので、令和5年4月1日からとなりまして、令和5年4月1日は職務代理者の齊藤副区長名となります。</p> <p>よろしくお願いいたします。委嘱状、C委員。豊島区立郷土資料館運営委員会委員を委嘱します。任期令和5年4月1日から令和6年3月31日まで。令和5年4月1日、豊島区長職務代理者・豊島区副区長 齊藤雅人。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
C 委員	<p>よろしくお願いいたします。</p>
文化デザイン課長	<p>では、C委員、一言お願いいたします。</p>
C 委員	<p>大変遅れて申し訳ございませんでした。前任の先生は社会科専門だったので、色々な見地からお話いただけたと思いますが、申し訳ないですが、私は社会科専門ではないので、出来ることは、長崎小学校なので獅子舞のことは色々語れますので、よろしくお願いいたします。</p>
文化デザイン課長	<p>それでは委員の委嘱が終わりましたので、浜田委員長、この後の議事の進行をよろしくお願いいたします。</p>
浜田委員長	<p>はい。ではまず議事に入る前に、傍聴者は、今日はいらっしゃらないと聞いていますが、よろしいでしょうか。</p>

<p>事務局 浜田委員長</p>	<p>いらっしやいません。 はい。では改めまして、今日は大変お寒い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。年に1回の委員会で報告が中心ですが、今日は企画展の見学もあるということですので、後で色々ご意見をいただけたらと思っております。それから今日は、E委員がご都合でご欠席という連絡をいただいております。では議事次第に従って進めていきたいと思っております。まず2番目の令和5年度の事業報告と予定について事務局から報告をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。では私の方から説明させていただきます。資料1をご覧ください。資料1は、令和5年度の郷土資料館の事業報告となっております。1番が展示ですが、最初に収蔵資料展の「関東大震災100年、新着資料展」となっております。その前に5月28日まで「豊島大博覧会」が会期延長となりました。8月1日から「関東大震災100年」になります。この「関東大震災100年」は、グラフ雑誌や、震災見舞いのハガキですとか、帝都復興記念章などもあわせて展示させていただきました。あとは豊島区の庁舎の変遷ということで、旧庁舎の看板などを展示しました。新着資料に関しましては、日本画家の方から、画材や道具などをご提供いただき、展示をしております。他は都電の側面板とか、幅広いものを展示させていただきました。これは令和3年から4年に寄贈された資料や提供写真でございまして、写真は岡本太郎のメリーポール、昭和37年頃に西武の前に設置されていた作品の写真とかを提供いただきましたので、展示をさせていただきました。 (2)は、企画展、ご覧いただきます「佐川美代太郎展」になります。その後、2月1日から3月24日まで収蔵作品資料展ということで「5つの窓から一池袋モンパルナスが旅をする2ー」、後ほど、これについてはご説明をさせていただきます。講座・講演などですが、去年は90周年で豊島ミュージアム講座を開催できなかったわけですが、今年は全4回開催をさせていただきます。刊行物については変わりません、「かたりべ」と『生活と文化』を2月16日、3月22日、発刊予定です。その他、豊島大博覧会を実施したことによりまして、寄贈の希望が大変増えました。ただ、収蔵庫にも限りがありますので、要綱に基づいて吟味しながら受入れさせていただいている現状です。 では1枚おめくりください。統計資料を5枚準備させていただきました。まず各年度比較ですが、平成23年から令和4年度までの来館者数の推移です。「豊島大博覧会」、とてつもない展示でございまして、対前年比で4.4倍、一番ピークの時の平成30年度の時の2.5倍のお客様にご来館いただいております。雑司が谷旧宣教師館も昨年度比で2.1倍、鈴木信太郎記念館も1.7倍、やはり90周年の効果というところが表れたと考えております。 次に資料1-2は、月別の来館者です。こちらは、前年と比較いたしますと、郷土資料館は、現在は1万名ぐらい減っていますが、90周年展示との比較ですので、致し方ない面もあり、辛い状況でございます。雑司が谷旧宣教師館は、プラス779名、鈴木信太郎記念館の方はプラス3,346名と90周年時を上回る来館者を記録しています。 次の資料1-3では、郷土資料館リニューアル後の全ての企画展、収蔵資料展を比較したものです。この中で、やはりナンバー1は「豊島大博覧会」で、2番目も、その前の「昭和の暮らしと遊び」という90周年時の企画展でした。その次は、郷土資料館リニューアル直後の「学びと暮らし」、こちらが1万名を超えている展示ですが、こうなると郷土分野の来館者が多いというように、お考えになるかもしれませんが、開催日数あたりの来館者数を比較いたしますと、「豊島大博覧会」がナンバー1ではございますが、2番目は、「アトリエのときへ」が233名、その次が「池袋への道」で、やはり美術の人気</p>

が高い結果になっております。

次の資料 1-4 は「豊島大博覧会」の経過で。前年ですれ途中までご報告しましたが、延べ 4 万 4,336 名の推移をお示ししております。

急ぎ足で申し訳ございませんが、資料 1-5、こちらは、トキワ荘通り昭和レトロ館、郷土資料館が新たに担当になった施設です。こちらをご覧ください。令和 4 年度は 1 万 8,000 名以上でして、5 年度はもう 2 万名を超えております。こちらトキワ荘通り昭和レトロ館の名前通り、トキワ荘マンガミュージアムとの連携効果が高い施設です。トキワ荘の人気の展示がありますと、やはり来館者が伸びたりとか、そのような相乗効果がある施設です。

私からは以上ですが、次に雑司が谷旧宣教師館からご説明申し上げます。

事 務 局

雑司が谷旧宣教師館の事業報告をさせていただきます。雑司が谷旧宣教師館は、平成元年 1 月から開館をしております、本年で 34 年目を迎えています。令和 5 年度の事業報告としては大きく 3 点報告させていただきたいと思っております。まず 1 点目でオータムコンサートの開催を挙げたいと思っております。今年度は、11 月 5 日にチェロ奏者の飯島奏人さんをお迎えいたしまして、チェロによるソロコンサートを開催いたしました。様々な制限が解除されまして、約 3 年ぶりの開催ということで、事前の想定 20 名の倍である 40 名の方にご来場をいただきました。(3) のアンケート結果をご覧くださいと、主に我々の雑司が谷旧宣教師館のコンサート事業としては、「広報としま」をみて来てくださっている方が大変多い点。また久々の開催で心待ちにしていたといった声、またぜひ次も応募して来たいといった、嬉しい声をいただいております。

続いて資料裏面に参ります。今年度の事業報告の 2 点目として、令和 5 年度は館内のクリスマス飾りを、1 月 10 日まで現在実施中でございます。こちらの事業は本年度初の試みとなりまして、まず玄関ポーチのところに、クリスマスリースを設置しました。また食堂に 2m10cm 程の大きなクリスマスツリーを、また 2 階のアンケートボックス横にミニツリーを設置いたしまして、こちらもアンケート等でお客さんから大変好評をいただいております。また先日は 2 園ほど、近所の保育園の方にも来ていただきまして、大変喜んでいただいております。

最後 3 点目に参りまして、こちらは継続して行っている事業でありますけれども、ギャラリートークの開催です。こちらは毎月 1 回、第 2 土曜日に定期開催をしております、学芸研究員の方が 30 分ほど、常設展示では伝えきれない当館（建築）の魅力であるとか、歴史についてご説明をさせていただきます。またこちらのギャラリートークの方は、実施日以外にもご希望があれば、団体個人問わず、随時、解説案内という形で対応をさせていただきます。

続いて、ローマ数字のⅡに参りまして、令和 6 年度の事業予定についてご説明させていただきます。まず、来年度のコンサート事業としては、2 回のコンサートを予定しております。まず (1) のスプリングコンサートの方は、来年の 5 月にピアノ・ソプラノの演奏会を予定しています。また (2) にまいりまして、秋のオータムコンサートの方では、ピアノ・サクスの演奏、またそれに組み合わせて朗読をコラボしたコンサートというものを予定しております。また、2 番に参りまして『赤い鳥』の関連事業として今年度は少し休止した形になってしまっているのですけれども、朗読会の方、内容を再検討しまして、再開する予定で現在検討を進めております。最後に、3 番のその他ですけれども、継続事業で、本年度に引き続きギャラリートークを行っていくこと、また、先程ご説明した資料の上にあるクリスマス飾りの方ですれ、さらに継続していくことに加えて、クリスマス飾りの追加や、関連イベントなど、発展した形で行えないかということを検討しております。また、新規

事 務	局 局	局 局	<p>事業として、来年度は夏休みの親子体験教室の実施などを検討しております。私からは以上になります。</p> <p>では続きまして、鈴木信太郎記念館からご説明させていただきます。</p> <p>はい。鈴木信太郎記念館の事業報告をさせていただきます。当館は、2018年3月に開館いたしまして、今年で開館5周年を迎えることになりました。これにちなみまして、現在、開館5周年記念展示「5 cinq (サンク) ～5人のフランス文学者たち～」という企画展示を行っております。こちらは鈴木信太郎をはじめ、彼と親交のあった、辰野隆、山内義雄、小林秀雄、岸田國士、という我が国の文化を牽引した人々を紹介しております。また信太郎が翻訳に携わりました詩集『四風帖』ゆかりの品や、学生時代の小林秀雄がマラルメの詩を論じた試験レポートを初公開しております。またこの5周年記念展に関しまして関連事業を行っております。「山内義雄とポール×クロードル」というタイトルで、山内義雄のご令孫にあたる山本泰朗氏と、クロードルの専門家である大出淳氏のお二人に、山内義雄とクロードルの交流についてお話をいただきました。また、当館では毎月第3土曜日にギャラリートークを行っておりますが、今年度に関しましては、フランス文学担当の学芸員が、各回5人のうち1人を取り上げて、展示とともに紹介しております。3回まで終了いたしまして、残りは2回になっており、1月20日は小林秀雄、3月16日は鈴木信太郎のギャラリートークを行います。</p> <p>裏面にいっていただきまして、その他の事業といたしまして、口演会「フランス人落語パフォーマー シリル・コピーニ氏独演会」を行いました。こちらはフランス人の落語家のシリル・コピーニ氏をお招きいたしまして、今回で5回目の企画になります。フランス語と日本語を合わせて落語を行うコピーニ氏が非常に皆様を盛り上げてくださる企画となっております。エスプリの効いた話など、本当に皆さん楽しんでいただいております。また体験教室「クリスマス・オーナメントづくり」というのも行っております。こちらは記念館に「座敷棟」という明治20年代の移築された建物があるのですが、こちらを活用して当館を知っていただくということを目的として開催しております。主な対象は小学生なのですが、大人の方も参加していただけるように募集をしております。幅広い年齢層が参加できる事業となっております。今年度も大好評のうちに終わりました。来年度も参加したいというお声がけを皆様からいただきました。先程も申し上げましたギャラリートークでは、フランス文学関係以外で建築に関するギャラリートークを今後2月17日土曜日に開催する予定しております。</p> <p>そして最後になりますが、令和6年度の鈴木信太郎記念館の事業計画といたしまして、企画展示「100年前のパリの街は… ～鈴木信太郎の留学時代～」、まだ仮題でございますけれども、こちらは2024年開催のパリ五輪に関連いたしまして、信太郎が留学していた約100年前のパリの街を留学時代の資料とともに紹介する予定であります。その他展示関連事業の他に落語口演会、クリスマス・オーナメントづくり、ギャラリートークを継続して実施する予定であります。以上となります。</p>
事 務	局 局	局 局	<p>では続きまして、トキワ荘通り昭和レトロ館の事業報告を説明させていただきます。</p> <p>トキワ荘通り昭和レトロ館は、令和4年の11月3日に開館した新しい施設であります。運営は公益財団法人としま未来文化財団に業務委託しております。こちらは元々昭和20年代に建てられた味楽百貨店という、木造2階建ての建物、1階部分が乾物屋さんとか肉屋さんなどが入ったマーケット、2階の大部分がアパートとして使用されていたもので、そちらをリノベーションして開設した施設になります。規模としては小さいのですが、2階部分に展示室1から展示室4がありまして、あと多目的室2という部屋がありま</p>

す。これらの展示に関しては、郷土資料館で展示を施工しています。開館して1年経ち、2番目の展示内容というところで、若干の変更が生じていますので、第1期としては11月3日から今年の5月28日までで、これは区制90周年バージョンと書きましたけれども、そういう展示をしております。

裏面にいきまして、その90周年バージョンの終わった段階で1ヶ月ほど休館の期間を設けまして、7月1日から10月26日は常設展示のみ、展示室1から4まで開館しました。10月27日から来年の2月12日まで、常設展プラス多目的室2で、企画展「おもちゃの鉄道 DE 豊島区めぐり」を開催中です。お手元に企画展のチラシがあると思いますので、後でご覧いただきたいと思います。来館者数に関しましてはここに挙げている通り、先程の館長の説明にもありましたけれども、推移しておりますが、非常に大雑把に言うと、1日あたり100名ぐらいの来館者数があります。やはり土日は多いのですが、それを平均するとほぼ100人ずつぐらい来ている。そういった計算になります。

最後、令和6年度の展示予定ですけれども、いずれも仮称ですけれども、7月13日から9月1日にかけては「昭和のおもちゃコレクション」ということで、昭和生まれのおもちゃを体験しようということで、体験型の展示を考えています。それから10月26日から2月9日にかけては、「あの頃の給食と百貨店のお子さまランチ」というタイトルの企画展を予定しています。この企画展では戦後の給食の変遷ですとか、あるいは週末にデパートに行くことが都市部のサラリーマン家庭にとっての娯楽の時代がかなり長い間ありましたので、その辺りを展示で表現することを考えております。私からは以上です。

事務局 続きまして、2月1日からの美術の展示に関しまして説明をさせていただきます。

事務局 2月1日から3月24日までの所蔵作品展について、資料5をご覧ください。郷土資料館の企画展示室は、展示室そのものと常設展示室に大きなガラスケースがあり「大ケース」と呼んでいます。加えてこの時期はレファレンスルームで郷土学習のために、小学校の団体見学の展示もしております。そのうち企画展示室では「くらべてみる！5つの窓から」と題して、作品を比較しながら見ることを提案する展示を行います。その際国内外に取材した作品、心象風景、さくらが丘パルテノンに関係した作品など、旅をテーマにした作品約45点をご覧ください。大ケースの方は、「富士へ行くなら両参り」と題しまして、富士講に関する資料を紹介いたします。レファレンスルームでは、炭火アイロンなどの昔の道具を展示し、その変遷をご覧ください。以上です。

浜田委員長 どうもありがとうございました。ただいま各館から今年度の事業と来年度の事業計画をご報告いただきましたが、委員の皆さんから何かご質問、あるいはご意見がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

C 委員 区制90周年事業ですが、昨年度、高野前区長がすごいテコ入れされていて、各学校にバスも入ってきてくださって、ということがあったのですが。今年度も2月にそのようなことがあります。郷土資料館が入っていないということだったので。何があったんだろう、ということを感じているんですけど。

事務局 90周年の時には、高野前区長が是非、子どもたちに、「豊島大博覧会」を観ていただきたいということがありましたが、今回は、トキワ荘マンガミュージアムが主導になっております。昭和歴史文化記念館、つまりトキワ荘通り昭和レトロ館がセットというような形になっております。

事務局 学校の希望があれば、郷土資料館へも行けるようにすることは担当の方から聞いております。

C	委	員	予算のことなので何とも言えないですけども。こちらで説明があった時にはバスの契約上、郷土資料館は入っていないっていうようなことを聞いているので、せっかく「むかしの道具展」をやっていただけるので、なんだか勿体ないなっていうところはあります。
事	務	局	個別には、もうご連絡をいただいております。
C	委	員	そうですか。わかりました。上手く組み込んでもらえるといいのかなと思っています。
浜	田	委	その他に何かご意見ご質問はございますか。ではA委員。
A	委	員	昨年の「豊島大博覧会」、6万名近い方が入館されて、本年度もその良い影響があって沢山の方がいらしているということなんですけれども、予算規模としてはどうなんでしょうか。昨年はまた特別についてたのでしょうか。
事	務	局	左様です。「豊島大博覧会」、90周年事業用に数千万つきましたので、それで、壁を立てたりとか、普段できないような展示をさせていただきました。ただ、今年は、そのような壁を立てて、全てビジュアルを統一するということはできませんけれども、それぞれ工夫しております。今回、見ていただきます企画展も、学芸員がよく工夫をしている展示になっております。お金は90周年以前の時と変わらないですが、工夫をして、お客様にご満足いただけるものと思っております。90周年の時には予算がついたのですが。
A	委	員	そういう時だけ沢山予算がついて、沢山の方がお見えになって良かった、で終わってしまうのではなくて、これだけの実績をあげたのですから、その次の年も予算規模の方も少し多めにさせていただきたい。これだけ皆様、郷土資料館が楽しいところだということも分かっていたので、沢山の方がお見えになっているので、予算の方もそういったことで、多くなるように何か、それはどこに持ち上げたら良いのか分かりませんが。
事	務	局	多くしてもらいたいと思います。
A	委	員	ぜひ予算獲得を続けていただけたら良いのではないかなと思っております。
事	務	局	ありがとうございます。
浜	田	委	はい。やはり予算がつけば、それだけ人が入ることが今回も実証されたと思いますので、ぜひまた予算化の目途がつくと良いかなと思います。その他にご意見、ご質問ございますか。
B	委	員	よろしいでしょうか。今ちょっと予算のお話が出たので私から質問ですが、今の報告にはなかったのですが、昨年度、今年度、ご存知のように光熱費がかなり高騰していて、どこの博物館もその運営経費を削ってそちらに回しているという話を聞いておりますが、豊島区の場合はいかがだったのでしょうか。
事	務	局	豊島区の場合にはですね、あらかじめ大規模館に関しましては、財政課の方で、補正で付けていただきました。ただ、国の軽減策がございまして、補正がついたのですが、そこまで達していないという現状がございまして、影響は軽微だったのかなと思っています。もし、その国の補助が外された時は、ちょっときつい感じですが。しかし今は、国の補助がございまして、何とかもっていると、いうところです。
B	委	員	わかりました。私が関わっている何館かの文化施設が、何か予算が足りなくて随分苦労しているという話を聞きましたので。
事	務	局	予め、付けてはいただいております。
B	委	員	そうですか。ありがとうございます。
浜	田	委	その他よろしいでしょうか。そうしましたら続きまして、今日は、次第3にあります企画展「生誕100年 佐川美代太郎展」を観るということで、そちらに移動ということでよろしいでしょうか。
事	務	局	はい。では委員の皆様、7階へエレベーターで上がっていただきます。で

			はご案内をお願いします。 （「生誕 100 年 佐川美代太郎展」見学）
浜田	委員	長	浜田委員長：では、ただいまご案内いただき、ありがとうございました。ぜひ委員の皆さんから企画展のご感想やご意見をいただけたらと思います。が、いかがでしょうか。
C	委	員	私は存じ上げていなかったもので、すごい、こういう方がいらっしやっただと思っただけなんですけど。ただ自分がこういうので欲しいなと思ったら、こちら辺のもの（注：絵本原画）が欲しいかなと思って。もし来客数とかそういうのだけを考えてくださったら、その「映える」っていうところも検討されたらどうかと思いました。猫の人形を欲しいなとか、思ったのですよね。ぬいぐるみであったらちょっと買いたいなって。そういうのが例えばホームページとかに出ていて、行けば買えるっていうようなことになれば。結構アニメの聖地だったりするので、そういう人も取り込めるのかなっていうのは思いました。
事	務	局	そうですね。グッズを今回は、ポストカードは作成したのですが、著作権者の方のご希望とかもございまして。
C	委	員	まあ、それはあるんですけどね。
事	務	局	あとはこう、推したい作品というのが、ちょっと擦り合わせが上手くしにくかったかなというところはあります。やっぱり動物の絵葉書ですとか、犬が欲しいって言われる声は、お客様からも多いので、今後、そういったことを検討していけたらと思っております。
C	委	員	是非。
事	務	局	実は、企画展示室は撮影が全面禁止になっておりまして。その辺は著作権の絡みがある感じですので。
C	委	員	そうなのでしょうね。まあ、そこは大きなハードルだと思うんですけど。本当、若い人に特に来たいって思うようにするなら、そういうところも。池袋の西口、東口側と何かコラボできるものも必要になってくるのかなと思いました。
事	務	局	ありがとうございます。
浜田	委	員	他の委員の皆さんからも是非ご意見をいただければと、B委員いかがでしょうか。
B	委	員	この会議が始まる前に、ちょっと先に観ちゃって。2 度目入って観たのですが、やっぱり、説明がとても面白い良い説明だから、2 度目も観ていて良かったなというふうに思いました。それに何て言うんだろう、マンガ、美術っていう風にジャンルを分けるんですけども。この方（佐川美代太郎）を観てると、そんなジャンル、どこで区別して、どういう風に識別するのかって、ないじゃないかって感じがあって。その辺はこれから美術としても、一方でマンガ、探求の形でやっていく時の問題の多さにしてるので、とても豊かな感じがして、気持ち良かったです。
浜田	委	員	はい。ではD委員、いかがでしょうか。
D	委	員	私もうだいぶ前に、（佐川美代太郎の）お嬢様とお会いして、雑司が谷案内処で展示できないかなっていうふうに。ただ漫画家さんっていうだけで、あんなに沢山の作品を持ってらっしゃる方とは思わなかったんですけど。それから案内処は日本家屋なので、火事などあると大変なので。あそこでは展示出来ないという感じでお嬢様とお話をしたことがあって。展示でも、もし出来て、やっていたら、もっと凄いことになって。ただ、あんなに大きな屏風は飾れるところがないのですけれど。案内処の方も雑司が谷に関する展示をしていますので、是非お立ち寄りくださいませ。
浜田	委	員	では続いてA委員からもお願いできますか。
A	委	員	浅学で、この佐川美代太郎さんという方を存じ上げなくて。今日拝見して、

事	務	局	いや、こんなに素晴らしい作家さんがいらしたんだなと思ったんですけれども。先程の著作権の話にも関わるかと思うのですが、豊島区立郷土資料館では、SNSの発信はどうされているのでしょうか。		
A	委	員	<p>はい。今回の企画展では、色々とミュージアム系のプラットフォームとか投稿させていただいています。ホームページなどでこちらでフォームを入力すると、Xとかに投稿していただけるようなところに載せたり、今は郷土資料館では SNS を持っていないんですけれども、文化観光課で持っているインスタグラムに掲載していただいたり、私たち文学・マンガ分野で加入している全国文学館協議会という日本近代文学館が主体となったものがあるんですけれども、そちらのホームページと SNS に投稿したり。細々とですけれども載せていただいています。あと佐川美代太郎さんが加入していた日本漫画家協会と、日本漫画学会で SNS に載せていただくなど、今回はさせていただいております。</p>		
事	務	局	<p>企画展会場の撮影が全て禁止だということで。来て、こういうのを拝見したりとか、図録を購入したりすれば、あのかわいらしい猫ちゃんとか、そういうのがわかるんですけど、そうじゃなくて館の方からの発信として、もし著作権者様からお許しが出るなら、そういうので「今日一品」とかで一つずつ、毎日するのは大変ですけど、紹介をしていくと、どこかでこうブレイクという、すごく人気が出たりとか、最近、業界の中ではあったりするので。そういったところから発信をしていくとか、そういうので来館者数の増加とか、若者を取り込むとかっていうのに何か出来るかというのかなと思います。</p> <p>私、国の施設でちょっと仕事もしているのですが、今回、館長が変わりまして、館長が毎日発信しており、この施設も撮影禁止ですが、中のいろんなところを撮っては館長が発信するというので、ものすごい勢いでXのフォロワー数がすごく増えているということなので、中でされる方は大変だと思うんですけど、お金かかりませんから、そういうことをされるのもちょっと一つアイデアなのかなと思いました。</p>		
A	委	員	<p>ありがとうございます。今年度、館独自のXの要綱を整備いたしました。今年度中には発信できる予定です。おそらく来年度には、インスタグラムも準備をして、取り組みたいと考えております。是非、それにあやかって来館者数を伸ばしたいと考えております。</p>		
事	務	局	<p>ただ来館者数が増えると、ここは入館料なしですよ。当館もそうなんですけど、入館者数が増えれば増えるほど、印刷物とか、ただで配るものが増えていって、増刷しなきゃいけない。そうすると印刷費がすごくかかる。でも予算は先程お伺いしたら、前年度と一緒だっていうので、結構どうすればいいのかっていうところがあるんですけれども、そういうのもこれだけ増えたので、印刷費これだけ今高騰しているし予算を増やしてくれという、そういった手段にも活用出来るかもしれません。</p>		
事	浜	田	委	員	<p>ありがとうございます。</p> <p>私も実は佐川美代太郎という方は存じ上げませんで、今日の作品を拝見して、素晴らしい作家だなと本当に思いました。ですから、やはり一人でも多くの方に、ああいう作品があるんだということが伝わるようになると、もっと人気上がるのかなと思います。今回難しいのが借用して展示をされたということなので、たぶん著作権関係も、かなり苦労されているのかと思いますので、上手く話を持って行って、そのうち寄贈とかそういう話になれば、また状況も変わってくるのかなと思いました。それから豊島区ではたまたま文学ですが、マンガとか美術の部門が設置されていますので、先程B委員もおっしゃいましたように、美術もマンガも両方に長けているという方なので、そういう意味では豊島区が展示すべき作家なのかなというふうに思いまし</p>

<p>事 務 局 浜 田 委 員 長</p>	<p>た。そういう点では、ちょうど良い部門を持った館で開催できたと思いました。展示の仕方も、狭い展示室の中で沢山の作品を展示するのが大変だったということは、観てよくわかりました。もっと広い展示室があれば、きっと、もっと思う存分展示出来たんだろうと思いますが、狭い中でも、館内順路の足跡をつけてわかるようにしたり、とても担当者のご苦勞が伺え、展示の方法もとても素晴らしいと思いましたので、また機会があれば、この作家の紹介が出来る企画展を二度、三度と継続してやってもらえるといいかなと思っています。</p>
	<p>あとは郷土資料館が直接発信できる SNS の場がやはりあるべきかなと思いますので、それも今準備されているということでしょうか。これから発信量を増やしていただけるといいと思いました。</p>
	<p>はい。</p> <p>何か皆さんの方から補足、その他ございますか。よろしいでしょうか。面白い展覧会なので私の方も宣伝していきたいと思えます。置物なんかいいですよ、あのレプリカは欲しいなって個人的に思いました。そういう方向に行くといいと思っています。では、他にご意見がないようでしたら先に進めさせていただきますがよろしいでしょうか。では議題の4番目にありますが、令和6年度の事業計画の件について事務局から報告の方をお願いいたします。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>では資料6をご覧ください。令和6年度の事業計画案、これは予算になります。来年度予算の議会の承認を得ておりませんので、まだ予定ということになります。まず展示につきましては、「収蔵資料展」ということで、令和5年度に寄贈いただいている新着資料展を4月から9月に予定しております。10月から12月は、文学・マンガと郷土で連携した展示ということで、文学・マンガ分野の新着資料と児童文化に関する資料。それから、こちらはまだ検討中ですが、鈴木信太郎記念館に残されている文学者、フランス文学ということで、文学者に関わる資料などを、連携して展示したいと考えています。来年度の企画展ですけれども、再来年の1月から3月という予定で美術分野が担当します。「鈴木新夫展 はたらくひとの風景 生誕110周年」ということで、現在準備を進めているところです。「庁舎まるごとミュージアム」については、庁舎の3階を使ってPR展示を行っておりますが、今後見直しもあると聞いておりますので、ここは未定ということで、具体的な計画が立っておりません。講座・講演会につきましては、隔月で行っている展示見どころ解説、これは常設展示を中心として、企画展開催中はこちらも含めて、隔月第4土曜日の午後2時から行なっております。「第19回池袋モンパルナス回遊美術館特別講演会」、こちらもまだ検討中ではありますが、6月に練馬区美術館の方にご講演を予定しております。企画展開連事業として、講演会、ワークショップ、ギャラリートーク、学芸員による連続講座「豊島ミュージアム講座」を予定しています。刊行物は「館だより」「かたりべ」、紀要『生活と文化』、企画展図録等を予定しています。以上です。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>資料6-1は、今ご説明した郷土資料館と雑司が谷旧宣教師館、鈴木信太郎記念館、トキワ荘通り昭和レトロ館を時系列的にお示したものでございますので、こちらをご参考にしていただければと思います。では続きまして、令和6年度の美術企画展の説明をさせていただきます。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>資料7をご覧ください。他の自治体と比較して当区の大きな文化的特徴は、1930年代の半ばからアトリエ付貸家群が建てられ、多くの芸術家がここで暮らし制作したことです。その中で最も大きかった さくらが丘アトリエ村に、1939年から1980年に亡くなるまで在住し、制作をした鈴木新夫は、これまでに出身地いわき以外ではほとんど紹介されてきませんでした。2025年は鈴木の生誕110年にもあたります。広く知られていない作家の作</p>

			品を発信・紹介していくことで、池袋モンパルナスの幅も広がると考えております。いわきは炭鉱でも知られており、作家たちは戦前も戦後も炭鉱での制作を行っています。そういう作品をご覧いただく。その他には、1967年から吉井忠や佐田勝ら、区の具象作家とともに、新具象研究会というものを結成し、季刊誌「画家」というものを発行しております。それらについてもあわせて展示をしていきたいと考えています。大きな作品と素描類を遺族、いわきの市立美術館などから借用させていただいて、40点ほどの出品になるかという風に考えています。今のところまだまだ概要の段階ですけれども、佐川美代太郎のように、あまり知られていないけれどもPRとして紹介していただけたらと考えております。以上です。
浜田	委員	局長	はい、ありがとうございます。これは令和6年度で、会期が6年1月からではなく、7年ですか。
事	務	局長	失礼いたしました。
浜田	委員	局長	では、ただいま来年度の事業計画について報告ございましたが、委員の皆様から何かご意見ですとかご質問はありますか。特にございませんでしょうか。
C	委	員	いいですか。トキワ荘通り昭和レトロ館で、「あの頃の給食と百貨店のお子さまランチ」という、ちょっとすぐ行きたいのがあるんですけど。例えば給食だと学校給食の栄養士さんとか学校との連携、百貨店ですと大きいのが二つあるんですけど、そういうところとの連携というのはどうなっているのでしょうか。
事	務	局	全くまだ案の段階で具体的なものはこれから詰めていきます。今のところ他所との連携のことは、考えていなかったです。こちらのトキワ荘通り昭和レトロ館へは、トキワ荘通りの特徴として、マンガミュージアムのお客さんがかなりレトロ館にも来られます。その一方で通りすがりのお客さんというのも多いんですね。そうすると通りすがりの方が興味をひくような内容にしていくために、どうしたら良いかというのを、常に考えていて、そうするとやっぱり給食とか、それから我々の世代と同じような年代にとっては百貨店の大衆食堂であったりとか、屋上遊園地であったりとか、そういったものは結構興味をひく世代だろうという風に考えましたので、それを合体させる展示を次年度は考えています。多目的室2の中の部屋の様子をどういう風に構成していくかはこれからなのですが、今のところ学校の教室再現を行い、そこに展示を設えていく構想はありますが。そこから先はこれからもう少し考えていくことになります。
C	委	員	例えば、あそこで食事できる場所が確かありましたよね。何かあそこで給食のメニューを出すとか、百貨店の上の方でそういう出してやってみたいなのと、コラボできるのかなと。
事	務	局	そうですね。連携に関しては、これから考えていかないといけないところだと思います。
C	委	員	特にトキワ荘通りの商店街の方々って、トキワ荘を中心に色々な活動しようとしてされているので、その商店街の人をうまく取り込んで、色々な方々がやっているの。ぜひそういうところも、視野に入れていただけると良いなと思います。
事	務	局長	ありがとうございます。
浜田	委員	局長	その他では何か。B委員どうぞ。
B	委	員	何か去年も同じことを言ったのですが。新区長になったんですね。前区長からのたぶん繰越事項になっているはずなのですが、美術館構想というかね、その美術館をどういうふうに池袋、豊島区として設置して展開するかというような構想を、新区長の方からなるべく創造的に出していただけるように運営委員会としてもちょっと聞いてみたいという気があります。

浜田委員長	そのことに関しては私も大変気にしております、せっかく前回、実施設計まで行ったにもかかわらず、流れてしまった事業でしたので、ぜひ区長が変わったところで、また新規の博物館計画が打ち出されることをちょっと期待はしているんですが。もし必要であれば、我々委員会から何か意見書を出すとか、そういうことも考えたいと思いますので、ぜひ何かご協力できることがあれば言っていただければと思っております。
C 委員 文化商工部長	具体的に動いているんですか。 今は具体的には動いていないですね。元々の建設予定地だったところが、オリンピックの建設事情による高騰で入札が不調に終わりました。現在は千川中学校の仮校舎として「学び舎びいす」という複合施設を整備しています。
C 委員 文化商工部長	すいません。そちら今度、うちの方が譲れないところは。
C 委員 文化商工部長	あそこはまた学校改築時の仮校舎としてのニーズがあります。 千川中が終わったら、今度は要小が…。
C 委員 文化商工部長	要小学校が改築時期は未定ですが、とりあえず決まっています、その後も西部地域建替えのために必要な場所となっています。豊島区は敷地が非常に狭いので、まとまった土地がそもそもないところ行政課題としては大きくのしかかっています。池袋本町では、まとまった敷地が取得できたので、小中の連携校が実現しました。子どもたちの教育環境を整えるにはやはり最重要課題でもあるので、なかなかうまくバランスが取れないというか。美術館構想そのものはあったのですが、今、止まっているような状態です。その種地となるようなところが全く現状ではありませんので、なかなか難しい状況であります。
浜田委員長	なかなか建設の方も、前は東京オリンピックの建築で高騰して、今、大阪万博の影響でまた高騰していますので、なかなか落ち着く時期がないので、見通しが難しいのかなと思いますけれど。
D 委員 浜田委員長	よろしいですか。 はい、どうぞ。
D 委員 文化商工部長	参加させていただいて。あの設計の段階で色々と、皆さんの意見で設計のところまでは行ったのですよね。
D 委員 文化商工部長	そうですね。 それで2回。
D 委員 文化商工部長	2回、入札しましたが、不調に終わりました。 入札がだめになったのですよね。郷土資料館はもう最初から何度も何度も、今度はそのに、今度はおちにとかって、4回ぐらいだめになっているんじゃないかと思うんですけど。パリのオリンピックが終わったら、もしかしたら何とかなるのかしらってところだと思います。出来れば、でも色々な状態のことを知っていると言いつらくなります。
B 委員 D 委員 B 委員	色々な状態っていうか、時代の変遷があるからね。それをベースにして考えれば、新しいものができるっていう可能性もあるので。 そうですね。
D 委員 A 事務 A 事務 文化商工部長 事 務 局	「美術館を作ろう会」みたいな会だけは動かして行って、いろんな発想を、新しい発想を、そこで吸収していくというふうなことがあればね。 池袋モンパルナスは作家さんが沢山いらっしゃるので、何とか出来れば大変良いかとは思っています。よろしく願いいたします。 この建物自体は築何年くらいですか。 来年で40年です。築40年。 改修とか。 一度、2017年に大規模な改修工事をやっています。 大規模改修をやっているのです。 郷土資料館の展示も、その時にリニューアルしています。

A 委員 文化商工部長	<p>ここを建て替えるという話はないということですね。</p> <p>今のところはないです。郷土資料館の建物より古い学校や施設が、かなりあります。もう築 50 年、60 年になるような学校が非常に多いのですが、学校 1 校改築するのに 50 億、60 億かかります。全部 30 校ある内 10 校ぐらいしか終わっておらず、残り 20 校が待ちの状態です。</p> <p>学校施設以外の公共施設も老朽化していて、エレベーターもないような図書館や地域文化創造館など、結構あったりします。そこがようやくこれから改築しようというので、4～5 年内にようやく手をつけられるというような状況でもあります。上手くバランスを図りながら色々やっていかないといけない状況です。</p>
C 委員 文化商工部長	<p>厳しいですね。</p> <p>厳しいですね。一方で駅前の再開発事業とか、そういったところもかなり大きな動きになっていて、相当な財政負担が見込まれます。区の財政状況は、とりあえずまだ貯金の方が、借金を上回るような形ですが、そのバランスが変わってくるような状況があったり、過去の財政援助団体に転落する寸前までいった区財政がありますので、そこを何とか凌ぎながら上手く進めていかなければなりません。</p>
浜田委員長	<p>やはり今ですと、なかなか単独の施設を建設するというのは難しいかもしれませんが、例えば複合的な施設であっても、ここよりは良くなるのかなと思います。所蔵資料を考えると、やはりあまりにも狭い資料館なのかなと思いますので、せめてもう少し規模の大きなところに移転できれば、区民も活動しやすくなると思います。ぜひ前向きに進めてもらえるともとても良いかなと思います。今、その他の話にまで及んでおりますが、何か他にもございませうでしょうか。</p> <p>私の方からもう 1 点よろしいでしょうか。ご存知のように、この 4 月から博物館法が大幅改正されまして、登録制度が変わりました。この 4 月から登録博物館と、それから指定施設というふうに制度が変わっています。この資料館は今のところ類似施設のままかなと思いますけれども、法改正が済みましたので、これを機会に、せめて指定施設の準備辺りは進めていただくのがいいと思います。といいますのも、国からの補助金がやはり指定なり登録を受けると受けやすくなってきますので、そういったことを踏まえるとやはり手続きをした方がいいかと思っておりますので、ぜひご検討いただければと思っております。</p>
事務局	<p>東京都教育委員会に申請して審査を受ける、ということになると思うのですが。</p>
浜田委員長	<p>そうですね。基本的に都道府県教育委員会に申請して審査を受ける形になります。</p>
事務局	<p>教育委員会の指針や新しい基準をまだ調べていないものですから、今どういう形になっているのか確認したいと思います。</p>
浜田委員長	<p>都道府県ごとに審査基準を作っているはずですが。私も東京都が今どうなっているのか調べていないのですが、多くの県でももう審査を始めておりますので、整備はかなり進んでいるのかと思います。それから今度の登録制度では、色々専門家からの助言ももらえるということになっていきますので、これまでのようなただの事務的審査ではなくて、どういう運営とか経営をしたらいいかということも聞けるということになっているはずですが。そういうのも参考に準備を進めていただけると良いかと思っております。</p>
A 委員	<p>たぶん豊島区の、郷土資料館のこの規模とか内容でしたら、登録できるかと思うのですがけれども。前でいう相当施設というか指定施設ではなくて、登録にいけるのではないかと思うのですがけれども。私の勤務館も相当施設だったので、それは設置母体が大学だと相当施設にしかたないで、</p>

			<p>今度、新ミュージアムになるにあたって、もう登録にしようということになりました。それで東京都の方に相談に行ったところ、何ら問題はないというようなお話で、まだ申請はしていませんけれども。やはり博物館法の改正によって、登録かそうじゃないかで、結構、振り分けがされてしまうような雰囲気があるようなことを聞いています。</p>
浜田委員長			<p>今度の法改正は、学校法人も登録できるようになりましたので、登録は可能だと思いますし、それから登録基準も、従来の枠が多分継承されていて、昔は建物 50 坪という基準だったんですが、ここはその面積を多分超えているはずですので、そういう意味では登録も可能かなと思っております。学芸員も専任職を置かれておりますし、その辺は相談の上進めてもらおうと良いかと思っております。また登録を受けると、今度、新しく何か登録プレートを文化庁で作るという話ですので、それが付いていると、また一つステイタスになるかもしれません。それから今度の法改正の中では、登録館は全て都道府県でホームページ公開するというのも義務付けられています。そういう意味では全国規模で登録館の発信がされていくと思っております。メリットは以前よりも大きくなるかと思っております。</p>
事務局長			<p>指定を踏んで登録ではなくて、一気に登録ができるのですか。</p>
事務局長			<p>はい。一気に登録で大丈夫だと思います。</p>
事務局長			<p>当館は区外の収蔵庫施設を借りていて、自分たちの収蔵庫を持っているわけではないので。</p>
事務局長			<p>今度、(収蔵庫が)出来たと聞きました。</p>
事務局長			<p>飯能倉庫はありますが、美術や文学・マンガ、郷土の文書資料は、全部区外の借り上げ収蔵庫なので、区が収蔵庫を持っていないというのは審査の方では。</p>
委員			<p>あまり聞いたことはないです。</p>
委員			<p>調べてみないと。</p>
委員			<p>そうですね、調べてみます。</p>
委員			<p>そうですね、借用施設でもそれは可能かということは確認してもらったら良いと思いますが、ただ資料を持っていますし、それが保管されている、という事実がありますので、たぶん問題ないかと思っております。</p>
委員			<p>観光施設みたいなミュージアムって世の中にいっぱいあると思うんですけど、そういったところとの差別化を図るために登録にしておいた方が、日本博物館協会としては良いんじゃないかっていう話を、この間、何かちょっと聞きましたけれども。プレートがあることがステイタスなのかちょっとわかりませんが、文化庁からのお墨付きというのもあったほうが、安心感があるのかもしれない。</p>
浜田委員長			<p>事務手続きが大変だと思いますが、ちょっとご検討いただけると良いかと思っております。</p>
事務局長			<p>さて、時間もだいぶ過ぎてきましたが、その他に何かこの際、もしご意見等があればお出しいただければと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら、次回開催予定について説明をお願いいたします。</p>
事務局長			<p>はい。令和 6 年度の企画展「鈴木新夫展」が、1 月から 3 月にございますので、この期間に、皆さんご覧いただくことを兼ねまして、開催したいと考えております。</p>
委員			<p>ということは、次回は令和 7 年になると。</p>
委員			<p>左様です。</p>
委員			<p>わかりました。それではこれで一通り終わりとなりますけれども、何か全体を通して皆さんからございますか。よろしいでしょうか。それではこれで令和 5 年度の豊島区立郷土資料館運営委員会を終了いたします。どうも皆さま</p>

—	同	んありがとうございました。 ありがとうございました。
---	---	-------------------------------

会 議 の 結 果	
提出された資料等	<p>説明資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 資料 1…令和 5 年度 郷土資料館事業報告 ◆ 資料 2…令和 5 年度 雑司が谷旧宣教師館事業報告 ◆ 資料 3…令和 5 年度 鈴木信太郎記念館事業報告 ◆ 資料 4…令和 5 年度 トキワ荘通り昭和レトロ館事業報告 ◆ 資料 5…令和 5 年度 所蔵品展「くらべてみる！ 5つの窓から—池袋モンパルナスが旅をする 2」「富士へ行くなら両参り」/「むかしの道具」 ◆ 資料 6…令和 6 年度 事業計画について（郷土資料館） ◆ 資料 7…令和 6 年度 美術企画展案「鈴木新夫展 はたらくひとの風景 生誕 110 周年記念（仮）」 <p>配付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 豊島区立郷土資料館運営委員会設置要綱 ◆ 豊島区立郷土資料館運営委員会委員名簿 ◆ 令和 4 年度郷土資料館運営委員会会議録 ◆ 席次表 ◆ 展示広報印刷物、館だよりほか
そ の 他	